

# 富岡地域づくり 協議会だより



第5号

平成28年2月12日

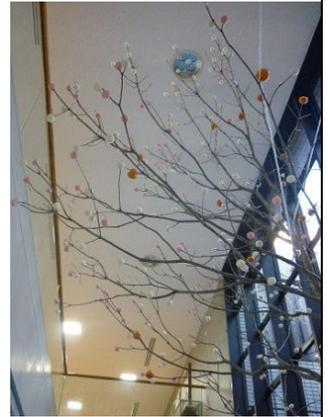
広 報 委 員 会

<http://www.town-tomioka.click/>

## まゆ玉まつり開催される

1月9日(土)10時30分より富岡まちづくりセンターにて、まゆ玉まつりが開催されました。恒例のと称されるだけに、伝統があり、知名度も高く、かなりの参加者があるのかなと思っていたのですが、今年は思いのほか参加者が少なかったようです。昨年度、まちづくりセンターの空調工事のために、本事業が中止されて、1年空いてしまったことも、この一因との声が聞かれました。

ただし、小さい子から年配者までが、和気あいあいまゆ玉づくりに興じている光景に胸をうたれるものがありました。なお、人数が人数だった分じっくりと、ていねいにまゆ玉づくりに取り組めたのかなと思います。作ったまゆ玉は、みかんと共にコナラの木に飾られました。こ



れは、しばらくセンターのロビーに展示されました。

なお、参加者全員に、団子汁が振る舞われました。我々取材陣もご相伴にあずかりました。富岡でできた野菜は一層おいしかったです。

ところで、『日本歴史大事典』によると、まゆ玉とは「餅花(もちばな)の一種。マイダマ、メエダマ、マユダンゴなどともいう。養蚕の安全と繭がたくさんとれるように祈ってつくる。小(こ)正月につくる所が多いが、2月初午につくる所もある。水木(みずき)榎、柳などの木の枝に餅や米の粉を繭の形に丸めて挿して飾る。小正月の火祭りで焼くこともあるが、20日正月などの一定の日にとり、マユダマカキなどという所もある。作物の豊穰を祈りそのさまを形づくって飾る物作りとしては粟穂(あわほ)稗穂(ひえぼ)稲穂(いなほ)木綿玉(もめんだま)などもあり、養蚕と結びついたものが繭玉であるとされる。」とか。



我々が子どもの頃は、この富岡地区にも桑の木がまだたくさんみられて、養蚕のなごりがあり、このまゆ玉も年中行事のひとつとして多くの家庭で行われていました。みかんや色のついた餅も飾られていました。これを焼いて食べるのも子どもたちの楽しみのひとつでした。今ではこの風習もほとんどみられなくなりましたが、ここにこうして連綿とつづけられていることに深く敬意を表したいと思います。

## 【富岡ライブラリー】

昨年7月に、まちづくりセンターで「富岡の今と昔」として展示したものの一部を紹介いたします。  
資料提供者は、『富岡ウォーキング 森 斌さん』です。



### 掩体壕（所沢新町）1975.1

第2次世界大戦の時、所沢飛行場の戦闘機を空襲から守るために作られた防空壕のようなもので、写真のようなコンクリート製と土製のものが富岡地区に多数あった。コンクリート製のものは、1977年までに取り壊された。



### 「旧富岡出張所 1968年」

昭和18年に所沢町と合併するまで富岡村役場庁舎として使用された建物。その後、右隣に新築されたが、さらに昭和62年に北岩岡の現在地に新築移転した。跡地はJAいるま野富岡支店となっている。



### 「旧富岡小学校 1964年」

珍しいトンネル型の入口。2階には図書室があった。富岡村時代にできた富岡尋常高等小学校は、本校と2つの分校に分かれていた。そのうち、本校が富岡小学校の前身となった。